

開催月日 令和3年11月6日(土)

開催場所 調布市立第四中学校 体育館

令和3年度
調布市立若葉小学校・第四中学校
基本構想中間説明会
第2回

司会 それでは、定刻になりましたので、調布市立若葉小学校・第四中学校基本構想中間説明会を始めさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、調布市教育委員会教育部教育総務課の平野と申します。どうぞよろしく願いいたします。

開会に当たり、調布市教育委員会教育部教育総務課施設担当課長の関口から御挨拶申し上げます。

関口施設担当課長 皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中、説明会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

調布市教育委員会では、今後、第四中学校の敷地を活用し、若葉小学校と第四中学校の校舎の改築を進めて参ります。すでに、市ホームページに関連コンテンツを掲載するとともに、広報誌として「若葉小学校・第四中学校改築だより」を発行し、このことについて、市民の皆ように周知を進めているところです。

また、この改築事業を進めるに当たり、本年6月に、学識経験者・教職員・地域の代表の方々等で組織しました、「調布市立若葉小学校・第四中学校施設整備検討委員会」を立ち上げ、現在、新校舎の建設に向けた検討を進めておまして、既に3回の検討委員会を開催したところです。

まず、最初に申しあげたいのは、本日の説明会は、新しい校舎の設計が完了し、工事の事業者も決まって、いよいよ工事を始めますといった工事実施の説明会ではないということです。この若葉小学校と第四中学校の改築事業がどのような経緯で決定されたのかということと、検討委員会では、いったいどのような検討が進めてれているのかということを中心に、本日は説明させていただき、各学校の保護者の皆様や地域の皆ように対して、今後、若葉小学校と第四中学校で、どのような施設整備が進められていくのかということについて説明をさせていただくことを主旨として企画したものでございます。

これまで、特に、若葉小学校の保護者の皆ように対しては、児童数の増加に伴う不足教室対策について、どのような見通しをもって対策にあたるかということについて、教育委員会として具体的に説明ができなかった状況にあり、お子様の教育環境に対する御不安・御心配をお掛けしてしまった点については、この場を借りまして、お詫び申し上げます。

実際の工事に着手するのは、まだ少し先の話になります。このため、この改築事業についての具体的な内容については、今後、順次、決定されていくこととなりますので、本日の時点では、詳細にお答えすることができない状況にありますが、本日、まずは、これまでの検討の経過と今後について、御説明をさせていただいた上で、限られた時間の中ではありますけれども、忌憚のない御意見を頂戴いただきまして、今後の工事着手に向けて活かしていきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

司会 続きまして、本日出席しております職員を紹介させていただきます。初めに、調布市教育委員会教育部長の小林です。

小林教育部長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 教育部次長の高松です。

高松教育部次長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 教育部教育総務課施設担当課長の関口です。

関口施設担当課長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 教育部教育総務課施設管理系の森木です。

森木施設管理係長 よろしくよろしくお願いいたします。

司会 それでは、本日の配布資料の御確認をお願いいたします。正面スクリーンを御覧いただきまして、

A4 縦 本日の次第

続いて、A3 横、資料1-1、調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備について

続いて、A4 横、カラー刷り、資料1-2、若葉小学校学区域内の学齢人口（6～11歳の総計）の推移

続いて、A3横、両面刷り、資料2、調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備の基本構想（案）について

最後、A3、横両面刷り、資料3、校舎配置計画比較検討（案）

以上の5点が、本日の資料となりますので、不足等がありましたら、左右又は後方の職員まで、お声掛けください。よろしいでしょうか。

それでは、続きまして、本日の説明会の流れを説明させていただきます。本日の次第を御覧ください。

本日、御説明させていただく内容は、4-1から4-3までの3件についてです。3件一括で御説明させていただいた後に、質疑応答を予定しています。

また、説明会の終了予定時刻ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、時間を概ね1時間程度と考えておりますが、最長でも1時間半として、午後3時30分までとさせていただきたいと思っております。円滑な進行に御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

続きまして、説明に入る前に、皆ように幾つかお願いがございます。

初めに、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用へ御協力をいただくとともに、座席の距離の確保、また、換気のため、一部の窓の開放を行っております。御理解・御協力をお願い申し上げます。

次に、本日の記録作成のため、音声の録音と、写真撮影をさせていただきます。お顔が写らないように配慮いたしますので、御了承のほどよろしくお願いいたします。また、個人による会場内での写真撮影、録音、録画についてはご遠慮いただくようお願い申し上げます。

最後に、本日の質疑応答のお時間でお伺いし切れなかった御質問については、次第に記載のURLまたは、QRコードからアンケートフォームにアクセスしていただいて、御意見等を寄せていただければと思います。

それでは、説明に移らせていただきます。4-1から4-3まで一括で御説明させていただきます。

関口施設担当課長 ここからは、着座にて失礼いたします。

それでは、調布市立若葉小学校・第四中学校施設整備検討委員会の中で使用しました資料を用いて、次第にそって、順次説明させていただきます。

最初に、4-1「調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の一体的な施設整備について」です。スクリーンを使いながら説明をさせていた

できます。少しスクリーンが見にくくなっておりますが、御容赦願います。
資料1-1を御覧ください。

こちらの資料は、7月27日に実施しました、第1回目の検討委員会での資料です。教育委員会の中で、これまで検討してきた内容について、まとめた資料となります。資料左側のボックス、1の若葉小学校における施設整備の当初計画案についてです。若葉小学校における喫緊の課題の中で、一番大きな課題となっているのは、児童数の増加に伴う教室不足の発生です。このため、若葉小学校敷地内で、小学校単体の施設整備を進めるとというのが当初の計画案でありましたので、その検討内容をまとめて記載したものとなります。

しかしながら、こうした検討を進めている中で、様々な課題が発生したため、最終的に判断して結論として出したのが、右側のボックス、2の若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の、一体的整備検討案に記載の内容となり、計画の変更を行いました。現在、この計画に基づき、実際の事業が動き出したところです。それでは、まず初めに、当初計画案というものが、そもそも、どういったもので、どのような検討がなされていたか、ということについて、説明させていただきます。

先程も説明しましたとおり、若葉小学校における喫緊の課題の中で一番大きな課題となっているのは、児童数の増加に伴う教室不足の発生です。そこで、児童数の増加が、どのような状況となっているか、ということについてから説明します。資料1-2を御覧ください。

まず初めに、若葉小学校の学区域内における、人口の変化・推移として、若葉小学校学区域内の学齢人口（6から11歳の総計）の推移のグラフについて説明します。学齢人口とは、小学生でいうと、第1学年の1年生の6歳から、第6学年の6年生の11歳までとなり、グラフは、6～11歳までの人口を足した総計を、グラフにプロットした資料となります。手持にありましたデータの関係から、平成25年度以降のデータを用いて資料を作成しています。

まずは、平成25年度のデータから見ていただきまして、4月1日を基準日とし、住民基本台帳に登録された情報から抽出して、グラフを作成しています。平成25年度にプロットした点が、当時の6から11歳までの人口の実数となり、平成26年度以降は、推計値としてプロットしています。例えば、平成26年度の推計値の試算方法は、平成25年度の人数に対して、卒

業した11歳の6年生の人口をマイナスし、新1年生として入学してくる5歳の人口をプラスしています。これを各年度ごとに、足した、引いたの差引を行い、推計値としてグラフ化しています。これが、平成26年度の推計。これが、平成27年度の推計。そして、平成28年度までの推移の変化としては、このような形となります。

平成25年度当時としては、平成30年度から増加に転じる見込みであったものが、実際には、平成28年度から増加に転じたことがお分かりかと思えます。そして、平成28年度中に、仮名で集合住宅Gと表記をしましたが、学区域内で300世帯を超える大規模集合住宅が竣工し、入居が開始されたことが、大きく影響したと思われ、平成29年度の推計値では、大きく上振れる傾向となりました。翌年の平成30年度は、多少の増加幅はあるものの、傾向としては前年から大きく変わるものではありませんでした。

しかしながら、この年度の途中で、仮名で集合住宅Uと表記をしましたが、再び集合住宅が竣工し入居が開始されたことにより、令和元年度の推計値では、更に大きく上振れる傾向となりました。これが、令和2年度の推計。今年度の推計としては、このような状況となっています。

そこで、こうした推計に対して、どのような対応を検討していたのかということに話が移るわけですが、調布市全体の事業計画を位置付けている、最上位計画に「調布市基本計画」というのがあり、この計画の事業期間が、令和元年度から、令和4年度までの4年間を、事業計画期間としています。現在、この調布市基本計画に基づいて、様々な事業が展開されており、本年度は、事業計画期間の3年次目となっていますが、当然、若葉小学校の不足教室対策についても、計画事業に位置付けて、事業を進める予定でございました。

そこで、このグラフを使いまして、時間を過去にさかのぼりまして、時を少し戻します。時間は、平成28年度までさかのぼります。この時点において、今後完成する集合住宅の入居に伴い、学齢人口の増加が発生する波が、2回発生することについては、想定出来ていた状況です。イメージとしては、台風の進路予想図と同じで、グラフに落とし込むと、このようなイメージとなります。1回目の波としてこのような増加予測となり、そこに、2回目の波が発生し、増加予測の方向が、大きく変化するイメージとなります。このため、このような、増加推計をたどるのではないかと予測を立てていました。

こうした状況の中で、若葉小学校の不足教室対策を、完了させる目標として設定したのが、現行の基本計画の最終年度となる令和4年度を設定しまし

た。そこで、どのような計画を立てて、どのようなスケジュールで実行していくのかという話になります。

こちらの表を御覧いただきまして、不足教室対策の完了を、令和4年度末に設定するため、校舎増築工事を令和3・4年度の2箇年をかけて実施することとし、工事に必要な設計を、令和2年度に実施することとしました。令和2年度に実施予定の実設計計に向けて、どのようなコンセプトの校舎を増築するのかという方針を決定するための、基本構想というのを、令和元年度に実施するため、平成28年度以降、学齢人口の増加状況を踏まえながら、多角的に検討を進めることとしました。

その一方で、令和5年度に向けては、児童数の増加に伴い、不足教室が発生するため、当面の間の対応として、校庭の使用に支障が生じない範囲で、平成29年度に仮設校舎の建築を、行うことと併行して、既存校舎内で、普通教室を確保するための改修工事を実施しました。

また、既存の給食室では、今後増加を見込む児童数に対して、調理能力の限界に達していたことから、給食室の拡張を含む給食室の改修工事を、平成30年度に実施しました。そして、令和4年度末までの必要な教室を確保するため、2度目の仮設校舎の建築を、令和2年度に実施したわけですが、この時点では、既に校舎を増築するスペースが、確保出来ないことから、いよいよ、校庭を縮小してでも、仮設校舎を建築しなければならなくなったという経緯になっています。

そこで、令和元年度の基本構想というのが、この後、建築する校舎の規模をどのくらいの大きさのものにするのかを決定するため、計画を進める上で、重要な意思決定が必要なポイントとなるタイミングとなります。そして、その時の判断材料として、今、説明してきた学齢人口の推移というのが、非常に重要となるわけですが、実際には、想定していた推計を、大きく上振れる状況となってしまい、このことが、今後の計画に大きく影響する事態となりました。想定していた推計のカーブに対して、令和元年度に出てきた推計のカーブが、このような状況になってしまったということです。

では、具体的に検討を進めている過程の中で、どのような影響が生じたのかということですが、現状の若葉小学校の敷地の中に、新たに校舎を増築するスペースはすでにありません。このため、一旦、既存の建物を解体、除却することによって捻出された場所を使って、再建築するしか方法がありません。

そこで、検討段階の初期段階において、既存のプールを解体して、そこに、校舎の増築と合せて、プールを再整備することから検討をスタートしました。

しかしながら、それでは、今後必要な教室等の床面積を、確保することが出来ないため、さらに、増築スペースを確保するためには、体育館を解体、除却するしか方法がなく、最終的に、既存の体育館・プールを解体し、そのスペースに校舎の増築と、体育館及びプールを再整備することとしました。これが、先程説明しました、現在の基本計画に位置付けた事業計画となります。

今後の児童数の増加に伴う、普通教室の確保に当たっては、このように、体育館及びプールの再整備も伴う、大規模な施設整備となることから、将来的な教室を確保出来る見通しを持っていたところですが、現実的には、学齢人口の増加予測が、大幅に上振れる結果となり、ここから導き出された、校舎の増築規模では、現在、若葉小学校の敷地が指定されている、用途地域の容積率をオーバーしてしまう結果となりました。実際には、体育館の床面積を、確保することが出来ない状況となることから、資料に記載のとおり、第四中学校の体育館を利用しなければなりません。また、一つの体育館を、小学校と中学校でシェアすることは、現実的に不可能なので、第四中学校側には、早急に新しい体育館を建築しなければなりません。

また、それぞれの学校においては、資料の中段（２）にも記載のとおり、施設面での課題があり、若葉小学校の敷地に隣接する、図書館若葉分館においても、施設面での課題があることから、総合的に判断し、資料右側のボックスに記載のとおり、第四中学校の敷地を活用し、若葉小学校と第四中学校の改築を同時に実施するとともに、小学校に隣接する図書館若葉分館の改築移転も含めた、一体的な施設整備という計画案にまとまりました。

計画変更に伴う、今後の事業スケジュールの予定についてですが、資料の右上に記載のとおり、令和３年度は基本構想の策定を進めます。基本構想の策定に当たっては、令和３年度の図を御覧いただきまして、検討委員会を設置し、検討を進めているところで、すでに、３回の検討委員会を開催したところです。

そして、令和６年度末までに設計を完了し、令和７、８年度の２箇年で、校舎の建築工事を進め、令和９年度の４月から、新校舎の供用を開始したいと考えています。

こうした、当初計画案からの変更について、令和元年度から、令和２年度

にかけて最終的な調整を進めていたため、若葉小学校における施設整備について公表が、今年度になってしまったというのがこれまでの経緯となります。以上が、4-1の説明となります。

続きまして、4-2「調布市立若葉小学校・第四中学校・図書館若葉分館の、一体的な施設整備の基本構想（案）について」説明します。資料2を御覧ください。

調布市教育委員会では、若葉小学校・第四中学校、及び図書館若葉分館の施設整備を進めるに当たり、今後の施設整備の在り方・方向性を示した、調布市立若葉小学校・第四中学校、及び図書館若葉分館施設整備に関わる基本方針を、本年6月に策定をしました。この中で、施設整備に関わる基本方針としては、方針1から方針3の三つを定め、方針1については、3項目、方針2と方針3については4項目をそれぞれ決めました。

本日、配布しました資料で、この位置に記載している内容が、施設整備に関わる、基本方針として定めた内容です。資料の表面、1ページ目には、施設整備に関わる基本方針の1について記載をしています。そして、この基本方針の1に対して、3項目の条件を設定しました。ここまでの、6月に策定をしました調布市立若葉小学校・第四中学校、及び図書館若葉分館施設整備に関わる基本方針の内容となります。

そして、この内容をもう少し、発展させた内容を、丸数字で箇条書きにしていますが、この項目を、現在、検討委員会の中で、議論をしている最中であり、検討委員会の中で、最終的に決定した内容が、今回の事業計画に関わる、基本構想という位置付けになりまして、新しい学校づくりを進めて行く上での、ビジョンに相当するものとなります。

続いて、裏面には、施設整備に関わる基本方針の2と3について記載をしております。検討委員会で議論している内容として、先程の説明と同ようになります。丸数字で記載をしております内容については、現在も議論をしている最中であり、10月時点での案となりまして、今後、修正が加わる内容であります。

本日は、あくまでも、現時点でこのような検討をしていますということをお伝えするために用意した資料であることを、御承知おきください。

以上が、4-2の説明となります。ここで、説明員を交代させていただきます。

森木施設管理係長　続きまして、4-3「校舎配置計画比較検討（案）」について説明します。資料3、両面刷りとなっておりますが、まず、表面、右下に12とあります「校舎配置計画比較検討（案）」を御覧ください。なお、右上の注意書きにありますとおり、第3回検討委員会時点での案であり、確定した内容ではありませんので、御了承ください。

現在計画している施設整備については、第四中学校の敷地を活用した施設整備を進める計画としており、新校舎の建設場所は、第四中学校の校庭内となります。第四中学校の校庭内のどの位置、どの範囲を活用するかということで、A、B、Cの3種類の案を提示しております。各案につきましては、もう少しポイントを絞って説明します。

まず、左端のA案は、敷地の南側に新校舎を配置するプランです。こちらのプランは、校庭の南側に新校舎を寄せるため、既存校舎を解体後、北側にまとまった形の校庭を確保することが可能です。

次に、中央のB案は、敷地の西側に配置するプランです。こちらのプランは、西側に新校舎を寄せていますが、東側にある既存体育館とあおば学童により校庭が他の案に比べ、不整形となりますが、校庭への日照が多く取れます。

最後に右端のC案ですが、A案と同様に敷地の南側に配置しておりますが、一度裏面の右端の図を御覧ください。C案は断面的に見た場合、中学校棟と小学校棟が中央の「共用」とある部分で接続している形状となっており、例えば、新宿にある東京都庁のようなツインタワーのような建物形状を想像していただければと思います。再度表面にお戻りください。

今回の計画では、図書館若葉分館を併設する計画のため、図書館を利用する方々の動線、保護者の方々を始めとする学校に関わる関係者、主に大人の動線、そして、児童・生徒の動線を、防犯面の視点から、それぞれ分離させ、その上で、校庭・グラウンドの形状や位置関係、近隣周辺への影響がどうなるのかという点に主眼を置き、比較検討を進めています。

続きまして、裏面の校舎ゾーニング計画比較検討（案）を御覧ください。こちらは、校舎の配置プランの検討と併行して、校舎内のゾーニングの検討を進めるために作成した資料です。ゾーニングとは、ある空間をテーマや用途などにより大枠で分け、部屋の配置を考える上で基本となるものです。

今回整備する施設は、小学校と中学校が一体的な施設、校舎となりますの

で、小学校エリアと中学校エリア、それぞれのエリアをどのようにレイアウトしていくのが良いのかということについて、今後も検討委員会にて議論を進めていく予定です。

以上が、現時点での、校舎の配置計画と校舎ゾーニング計画それぞれの比較検討の説明となります。今年度の基本構想の策定に伴い、校舎の配置計画と校舎ゾーニング計画をまとめていく予定です。その後、基本設計、実施設計と続いていきますが、詳細プランの決定は実施設計段階となります。そのため、冒頭にも説明したとおり、現時点での計画案であり、確定した内容ではありませんので、御理解いただければと思います。

司会 それでは、質疑応答に移らせていただきます。質疑応答に当たり、皆ように幾つかお願いがございます。

まず、御質問のある方は、手を挙げていただき、司会の私が指名させていただきます。係の者がマイクをお持ちいたしますので、マイクがお手元に渡りましたら御発言をお願いいたします。

御発言に際しては、「若葉町1丁目の平野です。若葉小学校の保護者です。」と言うように、初めにお住いの地域をおっしゃっていただき、支障のない限りで結構ですとお名前をお願いいたします。また、学校の保護者の方には、学校名をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

なお、質問者が多数の場合には、午後8時10分を目途に一旦打ち切らせていただきまして、残りの質問者の方を限定させていただきます、大変申し訳ございませんが、8時25分を目途に、質疑を終了させていただきたいと思っております。御了承をお願いいたします。

それでは、御質問のある方は挙手をお願いいたします。

まず、私からみて右のグレーの方をお願いいたします。

〇〇 今日はありがとうございます。若葉町3丁目に住んでいる、今年子どもが生まれたので、丁度、この計画で行くと令和9年度からこちらのエリアでお世話になるのかなと思っている者です。2点ほどお願い、というか、今後計画していくに当たって、もし反映していただければということ、あと1点質問をさせていただければと思います。

まず、この校舎を建てるに当たって、周辺道路については、特段、校舎側の方をセットバックして歩道を拡げるとかという検討をされてるかどうか分からないのですが、保護者の視点からするとやっぱり歩道は、それほど広くない部分だったり、マウントアップ形なので、すこし段差もあると思うんですね。なので、バリアフリー等の配慮のない道路ということがあると思うので、せっかく整備するんであればそのあたり、もし御検討いただけるのであれば、お願いしたいというのが1点です。あと、入間川の方が、もう少し上流の方ですけれども、氾濫してるってこともあると思いますし、基本構想の中でも、そのあたりが書いてあったので、そういったところが氾濫した場合には影響のない範囲での配置をされるということは書かれてるんですけど、例えば、せっかくこういった校舎ですし、少し低地にある部分もあると思うので、貯水槽だったり、貯留槽っていうんでしょうか、そういった災害時に水が溢れた時の、少しでも氾濫した時に校庭なりとかに、地下貯留槽とかを作れるのかどうかとか、というのは、今後、御検討いただければなと思うので、意見として言わせていただければと思います。あと、資料1-1の右側に計画があって、その下にPFIってあるんですけど、これちょっと質問させていただければと思うんですが、このPFIってのは、どこまでを想定されているものなのか。設計と現場の施工までなのか、それとも分館もあるので、その辺の運営の管理まで含めたPFIなのかっていうところを、今検討されている限りで良いので、教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

関口施設担当課長 御質問ありがとうございました。まず1点目の周辺道路の整備については、現時点ではまだ、検討は進んでいない状況です。ただ、学校からの情報で、低学年が四中の歩道を通って若葉小学校に登校する際に、歩道の幅が狭くて、結構渋滞というか、長い列になって来て、場合によっては車道に出て歩いてしまっている子ども達もいることは認識しております。実際にはこれから配置をする建物の形状によって、少しセットバックして歩道を広くするということが出来れば、そういったこともやっていきたいなと思っています。ただ、現時点ではまだそこまでの検討は進んでいないので、これ以上明確な事は言えないんですけども、今の歩道の形態というものが、本当に良いのかどうかってところでは課題があると

いう認識でおりますので、そこはちょっと今後検討していこうと思っております。

また、防災の視点で、入間川が氾濫したらということでは、過去に丁度、四中の北側で集中豪雨があった時に少し水没したという状況があります。総合防災安全課で発行している防災ハザードマップでは四中と若葉小の敷地の50センチ位が浸水に入ってくる状況になりますので、まず建物の1階フロアのレベルとしては、やっぱりそれを想定して考えていかないといけないかなと思っております。しかし、これだけ建物を上げるとなると、やっぱりバリアフリーだったりということもありますので、そこをどう上手く配置していくかというのが、これからの検討課題かなと思っております。

万が一、入間川が氾濫した場合の貯留槽等ということについては、今後の課題かなと認識しております。

今後、実施するPFI事業につきましては、今現時点での案としては設計・施工一括で発注をする予定で、建物整備に当たっては設計から施工までを一体と考えております。その後の運営方法については、まだ具体的にどこまでを民間に委託するのか、詳細な検討に入っていない。また、事例を挙げますと、調和小学校の方はPFI事業でやっていて、あれは学校施設のほかに屋内プールを造って、その運営を事業者に、そこも含めてPFI事業をやっておりますけれども、今回は、まずプールの在り方についてもまだ決まっていない状況でありますので、実際の運営の中身については、今後詳細を練っていく状態でございます。以上です。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。左側の方、お願いいたします。

〇〇 今日はありがとうございます。私は17年前に、若葉小の直ぐ隣に越して参りました。既に、子どもは、もう小中学校の学齢域を超えておりましたので、そういう意味での関わり方はなしに過ごして参りましたけれども、小学校が隣にある。これは、例えば、騒音で迷惑とかそういうこととは全く別にですね、とても良い、逆に言うと環境の中で住まわしていただいていると思っております、大きなオープンスペースにもなってますしね、私は、小学校の隣に住んで良かったなと思って過ごしているところ

です。そういう中で、今回の、かなり大きな変化があるということで、関心を大いに持っているというところであるんですけども。もちろん教育施設としての地域との関わりだけではなくて、今回の場合、特に図書館の分館と一緒に動くというか、より良いものになっていくんだと思うんですけども、そこがあるということで、地域との関わりというのを、やっぱり、私もこれが出来る頃には80代近くになるんですけども、これから人生の最終盤を過ごしていく上で、良い形で、この変化を受け止めたいなと思っております。前置きが長くなりましたけれども三つ伺いたいと思います。

まず、図書館の分館がこの設計・計画の中に入っておりますけれども、いわゆる分館の統合というようなことがあるんじゃないかってことを、チラチラ聞いたような覚えがあるんですけども。こういったことは、若葉分館についてはない、若葉分館は残るといった前提でよろしいのでしょうか。これが一つです。ただあの、他の所が逆に言うと、若葉ではなく、他の所はなくなるというのは、私はとても残念だという気持ちがありまして、今のこの分館システムというのはとても上手く出来ていると思うんですね。本当に日々活用させていただいている。取り寄せも直ぐできます。地域に対して図書館の機能というのはとても上手くいっているという気がしますので、これを更に良いものにしていただくという形で、討論をしていただきたい。要望も含めてです。それが1点目です。

2点目はですね、現在の若葉小学校の敷地の性格がどうなるのか。というのは、チラチラ見えているんですが、要はサブグラウンドと書かれていると思うんですけども。私がこれを見て最初に思ったのは、サブグラウンドも分かります。小学校・中学校両方で使っていただくのも良いと思うんですけども。せっかくこれだけの新しい空間が出来るということならば、それをより地域に開いた形での運動施設だったり、文化行事だったり色々あるかもしれませんが、地域により開かれた形での活用は出来ないのかな。という、その辺をどう考えていらっしゃるのかということが一つ気になります。また、皆様十分御承知だと思うんですけども、若葉小学校って調布市で最初の鉄筋校舎である。これって20年30年先を考えていくと文化財になるんじゃないかと思うんです。これをなくしてしまうっていう、スクラップビルドしてしまうっていうんじゃないかと、むしろ私はこの話を聞いて直感的に思ったのは、今の若葉小学校の部分をより地域に開

かれた状態にして、そこに図書館の分館や、あるいは、今この地域は会議室なんか非常に足りない状態になっていると思うんですね、これは東部公民館の問題とも関連してくると思うんですけども、そういう、より、地域の人が自由に、より気楽に使えるようなそういう施設を含めた形で、今の若葉小学校の校舎をですね、リニューアルする形。潰すのではなくて、より良いものに変えていく形で活かさないのか。そういうことを思いました。その辺のことは検討されたかもしれませんが、意見を含めて申しあげておきたい。

最後、三つ目ですけども、これも良く御存知のとおりですが、今、日本の社会、世界全体の事かもしれませんが、脱炭素の方向で進んでいます。調布市についてもゼロカーボン都市宣言だったと思うんですけども。これから造られる学校施設あるいは地域、地域を含めた施設というのはエネルギーの問題というのはやっぱり、外せないと思うんです。まさにこれは、これから関係していくことなんだろうと思うんですけども、出来れば、この新しい小中学校の校舎でですね、日常的にエネルギーの比率と言いますが、自然エネルギーで回していけるような施設が出来れば、これは画期的だし、おそらく2050年においてはそれがスタンダードになっていく気がします。そういうことをここで、もちろん財政的な問題も色々あるんでしょうけれども、思い切って出来ないか。そういうことが出来ればですね、防災機能の面からもとても安心した防災基地になると思います。ここではエネルギーが自立されている。自給されている。まあ、そこまでは出来ないまでも、自然エネルギー100パーセントでこの新しい校舎が運営されることに決めた。運営されるってことが私は望ましいと思います。ぜひそれは追及していただきたいというふうに思います。以上。一言だけ付け加えたいんですけども、先程別の方から御質問があったPFIの事ですけども、今のところ設計施工で一体という所までだとおっしゃっておいりましたけれど、PFIの問題は懸念の部分もあります。別の事業ですけどもヨーロッパなんかでも、あれ、PFIってどうなの？という見直しというか、そういうこともあると聞いておりますし、やはりこれは懸念も含めてありますので、慎重に進めていただきたいと。ごめんなさい四つに。長くなりましたが、ありがとうございます。以上です。

関口施設担当課長　まず、図書館の分館のあり方のところなんですけども、まず市が、図書館だけでなく大きく抱えている問題として、公共施設をどう維持していくか。今まで造っていたものを全部同じ状況で維持していくってことは、今後難しい状況なので、総量を減らしていかなければいけないという考え方はあります。その中で、図書館もどうしていくかということについては、具体的にはまだ決まっていない状況でありますので、今の時点で図書館、分館を少し集約するとか、そういったところは具体的に定まっていない状況であります。まずここで若葉分館は移転しますけども、それに伴ってどこかの分館が閉館する。縮小することは、今の段階では計画はないという状況です。

2点目の、運動場の今後、土地利用について、まずはこちらに書いてあるとおり、既存の校舎の解体をして、グラウンドとして使っていきたいと思っています。他の市や区で、やっぱり小学校と中学校を一つの敷地にまとめた事例があります。そこはやっぱり校庭は1箇所なんですけど、そこで小学校と中学校が授業をやっていくには、取り合いになってしまって、なかなか難しいということもあるので、出来れば、我々としてはこの二つをグラウンドとして使っていきたいと考えています。また、地域への開放というところでは、調布市の東部地区には、やっぱり、市の運動施設といったものがない。西の方であれば、関東村と呼ばれるものがあったり、南地区であれば多摩川の運動場といったものがありますけれども、やっぱり、東地区にはそういったものがないので、開放していくという事は必要な視点であると認識はしておりますので、具体的に、その運営方法がどうなるかというのは、今後の検討課題だなと認識しております。

既存校舎の跡地利用ですが、今、お話にもあったように、若葉小の北側の校舎が昭和34年度に建築をして、調布市の公立学校で一番最初に鉄筋コンクリートで造った校舎であります。その後、昭和40年に入って昭和47年位までかけて順次今の校舎を増築した状況であるので、やっぱりこの校舎の老朽化というのも、非常に大きな問題という認識を持っていて、やはり、いずれ建て替えを見据えなければいけない時期であったことから、今回この一つの検討の中では、今説明したところでは児童数の増加ということで御説明させていただきましたが、もう一つの課題としては、やっぱり若葉小の校舎の、既存の老朽化というのも大きな課題でありましたので、最終的にはそこをトータルに考えて、一体整備という結論に至って

います。今の時点では解体という考え方を持っておりますけれども、残すという選択肢もあるかと思えます。しかし、北校舎は昭和30年代に造ったので、今バリアフリー上、教室と廊下も段差がある。それからトイレの一部も階段の途中にあたりということ、バリアフリーの対応の視点からでは、非常に使いづらい校舎になっておりますので、具体的に、今の時点では解体という案を持っておりますけれども、既存を残すというところでは、改めて検討課題かなという認識を持っています。

脱炭素社会、カーボンニュートラルの考え方がありますが、これも、新しい学校を造っていくうえでは一つ重要な課題というふうに思っています。ただ、具体的に今の段階で、どういったことが取り入れられるかといったことは、これから具体的に決めていく状態でありますので、今の時点で、こういった考え方があるとかいうことではなく、目指すことは目指すんですけれども、まだじゃあ具体的に何を取り組んでいくかってことは今後の検討課題との認識でございます。

PFIについては、調和小学校を造る際に取り入れました。これは全国的に見ても学校施設に初めてPFIを入れたのが、この調布市が最初の事業でありました。今もいくつかの自治体で、PFI事業で整備を進めていこうという動きもありますので、やはり、そういったところから少し情報を得ながら、今後のPFI事業の中身といったものを、より詳細に考えていきたいと思っております。以上です。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。一番前の席の右側の方、お願いいたします。

〇〇 若葉町1丁目の、今小学校に子どもが通っている保護者に当たります。今日はありがとうございます。いくつかお聞きしたい点があります。先程の生徒数の推移が少なくなってくる時があるのかなと思っております。そのような状況になったときに、マックスの数字で計画していた、造られたものがどういう風に利用されるのか。私の意見としては地域の方に、保護者の皆様も卒業したら住民、地域の方になると思っておりますし、引き続き関わっていききたい、使っていきたいという気持ちがありますので、色々セキュリティの問題ですと、分館の位置を見ると、分断、線が引かれてしまうのかなと思うところがあるので、そのあたりをどうお考えかお聞

きしたいです。また、プールについてどうするかまだ詳細には決まっていないとお話もあったが、調和小のように市民に開放するのであれば、屋上にある限り市民への開放は無理なのかなと、動線の問題もあると思うので、温水にするのかしないのかを、決定されてないのか分かりませんが、それがちょっと気になりました。

また、アンケート結果がホームページに載っていたので、色々見させていただいたんですが、やはりこの辺の地区の方、崖線を含めての緑とか自然とか、地域の文化とかが好きでお住まいの方が多いのかなと、野川も近いですし。建物の計画もあるとは思いますが、緑化の部分で、既存の自然もありますけども、新しく子ども達が楽しめるような、学習の中で取り入れられる様な畑、樹木もそうですし、そういうものが新たに加わると良いかなと思います。あとは、今在学中で、私は子どもが多いので、まだ未就学児の子どももいるんですけども、入学するに当たったり、在学に当たったりで子どもが遊ぶ場所、校舎の中もどんどん子どもが多くなってきていますし、中学校に校庭をお借しくださっているような状況ですけども、それもこのグラフのとおりに行くとしたら、なかなか中学校の方も増えてくる。小学校も増えてくる。それをどこが、教育委員会の方で検討するのか、学校で考えるのか。どちらにいろいろな意見を、思いを伝えれば良いのか分からないところがあります。

やはり、一番身体を作っていく時期だと思いますので、今、iPad だとかも導入されていますけれども、そういうことの、以前に、身体作り、色々学問の場ではありますけれども、もう生活の場が学校になっているので、そういうことを基本的に、前提として考えていけたらなと思うので、そこがとても気になっています。

あともう一つ、基本構想を今実施されているとのことで、学識経験者が今1名入っていらっしゃるということなんですけども、個人的には学識経験者が1名というのは、ちょっと意見を求める先が1名というのは少ないような気がして、もっと色んな、ここの近くの小学校とかもあるんですけど、全く違う、良い学校もあると思うので、そういう方とか色んな方、民間の方でも良いと思うんですが、入って色々良くしていけたらなと思うんですけども、そのあたりいかがでしょうか。

関口施設担当課長　いくつか頂きましたので、まず校舎、建物の今後の使い方、子ども達が減ってきた時の使い方については、確かにこれから子ども達が増えてきますので、建築する規模としては相当大きな建物になります。また、近い将来、子どもの人口が減って、空き教室が発生してきますので、その活用が出来る、まずは学校として造りますが、将来的に改修をして、転用が出来る様な造りにしたいと考えております。そうした時に、まず最初に入れるものとしては、学童クラブを入れたいと思っております。現時点では、新しい建物の中に学童クラブを入れる計画ではありませんが、それは、そこまで入れてしまうと、更に大きな建築規模になってしまうため、現時点ではそれは出来ない状況ですが、ある程度、子ども達が減って、空き教室が出来る状況になりましたら、この周辺にも学童がいくつか散らばっておりますので、少なくとも、子ども達が学校に登校したら、夕方までは学校敷地に居られることが良いと思っておりますので、そういう環境づくりを将来的に持っていきたいなということが考えにあります。そのうえで、空いているスペースについては、地域開放を前提に、地域の皆様が活用していくようなスペースに転用していくのであろうなと思っております。しかし、今の時点では、子ども達が増えていますので、どの時点からそういったスペースに活用出来るかということは、まだ見通しが立たないですが、そういった点も含めて、将来的な転用についても検討していきたいと考えております。

プールの在り方については、今の時点では、屋内にするのか屋外にするのか結論に達していません。しかし、今後整備するうえでは、なるべく建築面積を小さくしていきたい、既存の校舎がある中で建物を造りますので、これから整備をする計画については、建築面積を小さくしていかないと、建てる場所がないので、そうした時には、プールを建物のどこかに入れるような状況になりますので、まずは屋上に配置しております。今後、開放をするとなった場合には、屋内にするのかどうするかということもありますが、まず今の時点では、とりあえず屋上に配置しております。これは最終決定ではないので、今後、そのあたりも含めて検討する内容かなと思っております。

地域の特色、緑があることについては、先日行ったアンケート調査の設問の中で、若葉、四中から連想するイメージは何か？という質問に対して、緑や自然環境というキーワードを選択される方が多くて、自由記述の

中にも、崖線の緑を意識されて、自然環境があるということをおっしゃっておりますので、新しく学校を造るうえでは、そういったところも残せる形で考えていきたいと思っております。

子ども達の居場所についてですが、子ども達にもアンケートを取りました。その中で、中学生の意見としては、放課後学校に居場所が欲しいという意見が出ていますので、そういった気持ちを大事にしなければならないと思っております。しかし、具体的に建物の中に、どういう居場所を造るということはこれからの話になりますが…。

〇〇 工事中の遊ぶ場所ですとかが、あまりない…。

関口施設担当課長 工事中については、現在、建物の配置計画も含めて検討している状況ですので、どれくらいの影響が出るか。まずは、校庭のどこに造るか、どれくらい影響が出るのかも見えない状況ですので、なるべく、少しでも校庭を確保出来るような施設整備が出来たら良いなと思っておりますが、今の時点ではどれくらいの影響が出るのかということは、なかなか難しい状況なので、そこも含めてこれからの検討課題かなという認識でおります。

検討委員会のメンバーの構成についてですが、小学校と中学校の二つを改築しますので、小学校に係る方、中学校に係る方、そしてもちろん行政側も必要ですので、そうなった時にある程度大人数になってくる。そこにかんがりの学識経験者の方を入れてしまうと、更に大人数になってくるということもあるため、最終的には1名という形にさせていただきました。今後も今の1名の方で進行をしていく予定です。以上です。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。左から2番目の方、お願いいたします。

〇〇 今日はありがとうございます。若葉小のすぐ近くに住んでいます。今、おっしゃっていたように、若葉小の近くに引っ越してくる方というのは、まさにこの国分寺崖線の緑、それを気に入って来るんだと思うんです。巨大マンションに来る方もそれだと思います。なので、この地域の良い所をぜひ活かして残していきたいなと思うし、四中のもう卒業した方の

保護者でも、四中は緑が多いんですよと自慢していた方がおります。校庭の中でも緑が多いと。やはりそういう認識で来られたと思うので、ぜひそういう環境を作り続けて欲しいなと思います。

それから、図書館分館を利用することが多いんですけど、去年1年、丁度コロナと重なって、若葉分館が改修と言うことで半年閉館されたんですね。私は大変不自由を経験しました。その期間、調和図書館を利用していましたけど、自転車で行くのもちょっと大変だなと。近くにあるということとはどんなに便利というか、やはり文化だと思うんですね。ちょっと行ってこようって利用出来るのと、今日は行かなくっちゃと思わなくっちゃ動けないのと、やっぱり全然違う。そういう経験をしました。ですから、今の調布の分館が沢山あるシステムというのをぜひ維持して、更に良くして欲しいと思っています。いくつかの自治体に引っ越して、住んでる図書館を利用してきましたけども、その中でも私は調布が一番良いと思っています。今までの所、もっと良くして欲しい。少なくとも悪くなる方向のことは考えないで欲しいなと思っております。その中で、今後建替えなりなんなりとなったら、ぜひ、バリアフリーにして欲しいということ、これは建物、設備の問題ですね。それから、友人、知人にもいっぱい図書館関係で働いている人もいますので、彼らの労働条件というようなこと、非正規、不安定で働いている人によって支えられている、利用する側にとっても大変心苦しいことですし、子ども達が図書館を利用するにしても、ちゃんと身分保障ありきと、市の仕事として提供して欲しいなと思っています。調布だけでやるのは無理かもしれませんが、そういうことをぜひ考えて欲しいなと思っています。

調和分館を利用して思ったことですけど、図書館と隣接しているのかな。こういう形もあるんだなと思いましたけども。あそこはプールも一緒にある。プールは市民が利用出来る形になっているのを経験しました。今回この計画だとプールというのは市民に開放する方向というのはどれだけ考えられているのかなと。今ないからそのままというだけじゃなく、あれば良いなと思う一つです。検討していただきたいなと思います。以上です。

関口施設担当課長 緑について御質問頂きました。今後施設を造るに当たって、残せる緑も当然あると思いますし、建物を造る上では、どうしても

支障になって切らざるを得ない状況もあるかと思えます。しかし、これからまた育てる緑もあると思えますので、切ってしまうのであれば、それを代わりに残すということも大事だと思っておりますので、先程も言いましたとおり地域の皆さんは、若葉、四中は緑というイメージを持っていますので、多く緑を残せるような学校造りをしていきたいと思っております。

図書館については、昨年度、施設上の設備の課題があり、長期に渡って休館させていただきました。その間、御不便をおかけしましたことについては、大変申し訳なく思っております。今回、場所については少し移動しますが、現状の機能としては維持しながらより良い図書館づくりをしていきたいと考えております。

バリアフリーについても、これは必須だと思っております。色んな視点でやっていかなければならないなと思っております。まずは、造るのは学校でありますので、学校が必要な機能、加えて防災上では避難所となりますから、そういった視点でのバリアフリー、両方とも重点的に行っていきたいと思っております。

図書館の、今働いている方の労働条件については、同じ機能を維持する予定でありますので、これに伴って人を削減する等の考えは持っておりません。あくまでも場所が移転するというイメージを持っていただければと思います。

調和小のようにプールを開放するかどうかですが、最終的には財政的な面から決まることかと思えますが、屋内プールを維持するということは、非常にコストがかかることです。それは、設備の維持管理であったり、人件費であるということもあるので、一つ大きな課題としては、財政状態への負担となりますことが課題です。しかし、今回造るものは地域の資源ですので、それをどう有効活用するのかということは必要な視点です。最終的にどういう結論に達するかということには分かりませんが、今の時点では、開放等をやらないのではなく、何が一番良い方法になるのかをこれから検討していくということになります。以上です。

小林教育部長 補足をさせていただきます。図書館分館の今年の改修につきましては、御不便をおかけして申し訳ありませんでした。先程、お話にありましたように、すぐ近くに施設があって利用する。それこそが、市民

文化の向上に繋がることは我々も意識しております。今後、新しい形となった分館でも、市民文化が維持、発展出来るようにと考えております。加えて、新しい学校施設は当然子ども達が学ぶ環境を良くしていこうという考えもございしますが、そこに集まる教員含めての大人達、子どもだけではなく、大人にとっても良い環境は我々が目指していく方向ということは、これは間違いありませんので、そういう良好な関係の中で、やりがいを持って働いていただけるような、そういう環境も実現させていきたいと思えます。御理解のほど、よろしく願いいたします。以上でございます。

司会 それでは次の方に移らせていただきます。その前に、1点お知らせがございます。お時間の都合もございしますので、只今の段階で、手を挙げていただいている方で終わりとさせていただきます。他に御希望の方はいらっしゃるでしょうか。よろしいでしょうか。そういたしましたら、今、挙手していただいている2名の方、こちらの方で以上とさせていただきます。ありがとうございます。

それでは、最初にお手を挙げていただいた方、よろしく願いいたします。

〇〇 こんばんは。若葉小に子どもが通っている保護者です。先程の返答の中で、不安に思うことがあったのでもう一度確認させていただきたいのですが、今回の、この学校を新しくするに当たって、地域の人とか子ども達にとって、良いものを造っていただけるようにとても期待をしています。先程、プールを屋上に造ったら一般の人が利用出来なくなるんじゃないかという質問の問いに、敷地の都合上で仕方がないんじゃないかという面があるという返事だったんですけれども、これから長く使っていくものを造るに当たって、敷地の都合は確かにそうなんですけれども、そっちを優先させてしまうと、今回の若葉小にプレハブが二つ建ってしまったみたいな、そういう長く使っていくにはちょっと物足りないような形で、新しい建物が建ってしまうんじゃないかという不安がありまして。例えばですけど、新しい校舎の中に、プールと一緒に造る敷地がないなら、しばらくは若葉小のプールを使ってやり過ごすとか、工事の計画、かかる費用ですとか年数もそうですけれども、色々な御都合があると思いますが、ぜひ、良いものを造っていただけたらと思っています。

また、こういった形で私達の意見を聞いてくださってとても感謝しています。今ここで細かいことを色々言っても、これからの検討事項ということになってしまうと思うので、これから具体的な意見は、いつ、聞いていただく機会をこれからも設けていただけたらなと希望しています。よろしくをお願いします。以上です。

関口施設担当課長 まず、プールの在り方について、再度、御質問をいただきましたけれども、今の時点では、プールの在り方の具体的なカチツとしたものは決まっていない状態でありますので、繰り返しにはなってしまいますが、今日頂いた意見を受け止めて、今後の在り方については検討していきたいなと思っています。

また、今後の進め方についてですが、こういった場を今後どの時点で設定をするかは、まだ想定が出来ていない状況です。これから細かいプランを検討していくに当たって、まず最初にやらなければならないのは、実際に働いている現場の先生達、学校なので、建物の中をどう使い勝手の良いものに仕上げていくかというところで、ここはやはり、少し時間をかけていかなければならないかなと思っています。その中で、どういう形で市民の方に見せていくかという点については、今の時点では、具体的な考えは持っておりませんので、すみませんが、どのタイミングでということはお伝え出来ません。しかし、必ずどこかのタイミングで、こういう考え方で進めているということについては、こういった話の場を設定しなければならないと思っています。申し訳ないですが、時期について、今の時点ではお答えすることが出来ないのです。今後のアナウンスの仕方としては、今、発行している、改築だよりという広報誌を作っておりますので、まずはこちらで検討状況、進捗状況をお伝えしながら、このようなお話し合いの場、御意見を聞く場を設定したいなと考えております。以上です。

司会 それでは、最後の方、後ろの方ですね。よろしくお願いたします。

〇〇 若葉町の1丁目で、生まれた時から、こちらで住んでいる者です。今日、夕方、初めて、回覧板でこちらの意見の会があると知りまして、間に合って伺うことが出来たんですけども、御質問というより、御要望で申

しあげたいんですが、何人かの方もおっしゃっているように、図書館を頻繁に利用しております、今回関わってくるエリアでしたので、参加させていただいた次第なんですけども、同僚だった学者の方が、調布市は、東京都の中で、大変に図書の所蔵量が多いということで、図書館の数も、一番地域で多いということも伺いまして、わざわざ、そちらの方は結婚されてから、資料が沢山あるということで移住されて来たということ伺ったことがあるんです。私本人も、子どもの頃から若葉分館と緑ヶ丘分館の2館を主に使っているんですけども、やはり図書館が沢山あるというのが、非常に、自分としては暮らしやすいと思っております。やはり、コロナの、先程も、お話にも出ていましたけども、資料を調べたりすることが出来ない子どもも、世界的に窮屈な、どうにかならないかと、まず図書館が一番感じました。要望なんですけども、まず、小学校と一緒に併設した所になるということで、建物、何階かになるというお話は、今、自分なりに理解したんですが、出来れば、お子様、児童のフロアと社会人のフロアというのが、分かれていると良いなと思いました。読み聞かせですとか、自分自身も朗読や何かも好きなんですけれども、やはり、調べ物をしているフロアでも、お母様達が、平気で普通のお家の中での声で、読み聞かせをなさったりしてるケースがよくあるんですね。やはり、それは、寛大にならなければならないと思うんですが、図書館で、書籍と向き合うルールと言いますか、それは、ネットが普及しても変わらないものだと思うので、出来れば、階数を分けられるような。一緒に、合同のイベントが出来るような、例えば、アートギャラリーですとか、そういうものがあれば、更に良いなと思うんですけれども。児童フロアと社会人のフロアを分けた図書館、さっき、入口を考えてらっしゃるっていうのもあったし、そちらは要望でお話したいと思います。

そして、もう1点。これは感想なんですけども、プールのお話が、かなり出てきたと思うんですけれども、自身の学校のプールが、自身も水泳がすごく好きだったんですけれども、やっぱり、防犯の関係で、外からの盗撮ですとか、そういった、かなり調布市はオレオレ詐欺も多いというようなことで、お話伺っていますので、私自身は外で、季節を感じて泳ぐ方が好きなんですけれども、やはり、屋内にということはお考えになった方が良いんじゃないかと、私は聞いていて思いました。

最後に、この辺りですと、東部公民館の放送が、私の住まいですと、よく聞こえるんですが、お子さんが下校の時間に、児童の下校の時間ですという市内放送が流れると思うんですけども、私自身が、若葉の森の保全活動に、初期の頃、参加させていただきまして、減ってはいますけど、国分寺崖線の緑を保持しつつも、防犯を考えるとという点で、市内放送ですか、そういったところを引き続きずっと、改良しながらやっていただきたいというのを日々思っております。要望2点ばかりで、申し訳なかったんですけども、今、参加させていただいて思いました。お願いします。

関口施設担当課長 図書館の配置の考え方ですが、こちらは何度も同じような繰り返しで、申し訳ないんですが、具体的にはまだカチッと決まっておられません。しかし、やはり、不特定多数の市民の方が使いますので、建物の上の階、例えば、3階とか4階に持っていくという予定は、我々としては持っていない、1階にあるべきだなと思っておりますし、当然、1階と2階にフロアを二つにするというのも、機能的に難しいので、実際には、恐らく1階のスペースに、収めていくのが1番良いだろうと考えています。しかし、防犯の観点からは、学校のゾーンとは、切り離して考えなければならぬので、なるべく、道路に近い位置で、アクセスがし易く、学校のエリアとも、切り離せられるような位置に配置をしていきたいという考え方を持っております。また、プールも本日、御意見を頂きましたので、参考にさせていただいたうえで、今後の検討材料にさせていただきたいと思っております。

市内放送についても、御意見を頂きましたので、これについても、今後考えていきたいなと思っております。御意見をどうもありがとうございました。

司会 様々な御意見をありがとうございました。なお、次第の下段に記載しておりますが、説明会の中で確認が出来なかったことや、質問しきれなかったことなどがございましたら、次第に記載のQRコードもしくはURLから、アンケートフォームにアクセスしていただき、お問い合わせいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上を持ちまして、本日の説明会を閉会させていただきます。本日は、長時間に渡り、貴重な御意見を頂きまして、誠にありがとうございました。

お忘れ物に御注意いただき、お気をつけてお帰り下さい。どうもありがとうございました。